



ちひろ・子どもとあそび

●2021年3月1日(月)~5月30日(日)

いわさきちひろは子どもを描き続けた画家です。子どもとあそびは切り離せないもので、彼女の作品にもあそびの情景が登場します。本展では、ちひろの作品をあそびという切り口から紹介します。

自分の世界



図1 紙びなと和服の少女 1969年

「絵本の好きだった子は毎日絵を描いてあそんでいた」と、ちひろは自分の少女時代を振り返って書いています。子どもは自分の好きなことを見つけてあそぶ力をもって

おり、ちひろの作品にも、あそびに興じる子どもたちが描かれています。カレンダーの3月のために描かれたこの作品(図1)では、鮮やかな赤色を背景に、少女が紙びなをつくっている姿が目に入ります。一生懸命

に人形をつくる少女は、自分の世界に入りこんでいるようです。画面には、紙びなのほかにも、折り鶴や、お手玉も散りばめられています。

絵雑誌「あそび」

ちひろが1950年代から1960年代前半に描いた絵には、幼稚園で仲間たちとあそぶ子どもの姿がしばしば登場します。1948年に創刊された「あそび」は、「キンダーブック」のような絵本を地方からも、と静岡市の片井商会出版部の元教員である小林治助が同郷の幼児教育者、倉橋惣三に相談して始めた静岡初の幼児絵本です。武井武雄、初山滋らとともに、ちひろも絵を依頼され、1955年から1967年まで描いていたようです。この絵(図2)が掲載されたページには、子ども



図2 「せんせいと いっしょ」 1960年

ちが集団で遊ぶことが友人づくりにおいて大切だ、という保護者へ

主催 ちひろ美術館
協賛・協力: 株式会社ジャクエツ
協力: 福井県立美術館、静岡福祉大学附属図書館

の指導も記され、ちひろはその内容に合わせて絵を描いています。

『となりにきたこ』

「そのころ私は、ときどき垣根越しに隣のむすこと遊んでいた。ある日、垣根越しにその子が一冊の絵本を渡してくれた。」ちひろが語る子ども時代のエピソードには、絵本『となりにきたこ』の主人公が、垣根の向こうに引越してきた少年とあそびながら仲良くなる姿とどこか重なります。パステルの線を生かした絵からは、子どものもつ好奇心が見るものにストレート伝わってきます(図3)。

なつかしく、奥深いあそびの世界。ちひろの作品を通してお楽しみください。

(松方路子)

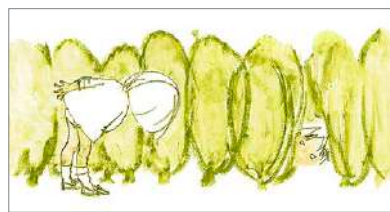


図3 『となりにきたこ』(至光社)より 1970年

生誕111年 赤羽末吉展 絵本への一本道

●2021年3月1日(月)~5月30日(日)

今も読み継がれる数多くの絵本を描いた赤羽末吉(1910-1990)。絵本画家としては遅い出発となった50歳までの年月、赤羽は時代の波に翻弄されながらも、心惹かれるものをあきらめることなく追い続けました。本展では、作品や資料を通して、明治から平成にかけての時代を生きた赤羽の人生をたどり、絵本画家となった背景を紹介します。

風土を描く画家

赤羽は1932年に旧満州(中国東北部)に渡り、以来15年間を彼の地で過ごしました。中国大陸の雄大な風土や長い歴史に育まれた郷土文化は、赤羽の絵心をおおいに刺激し、勤めのかたわら、本格的に日本画を描き始めます。日本が戦争によって植民地を広げた時代であり、国家の思惑として美術に地方色が求められた面もありますが、赤羽はその風土を描くことに情熱を注ぎ、画壇で活躍しました。日本の敗戦で当時の日本画は失われましたが、引き揚げのときにいのちがけで持ち帰った各地のスケッチや著書、掲載記事など多数の資料が現存します。なかでも内蒙古(内モンゴル自治区)を旅したときのスケッチ(図1)や写真は、四半世紀のときを経て、絵本『スーホの白い馬』(図2)の制作におおいに生かされました。

長く日本を離れていった赤羽にとって、再び目にした日本の風土の美しさは格別なものでした。特に雪国への憧れを募らせて、1954年から毎年のように冬になると雪国を旅するようになり、そのしつとりとした風土を描くため、墨絵の表現を研究しました。

少しずつ子どもの本も手がけ、1951年には日本童画会にも入会していた赤羽は、1958年ごろ、月刊絵本「こどものとも」を創刊して間もない福音館書店の松居直のもとへ絵を持ち込み、絵本を描くこととなります。「雪国」が描きたいという赤羽のために、松居が題材を選び、50歳のときに、墨絵の絵本『かさじぞう』(図3)は誕生しました。



図3 『かさじぞう』(福音館書店)より 1960年



図1 内蒙古の少年たち(部分) 1943年

主催: ちひろ美術館 特別協力: 赤羽家 協力: 偕成社、講談社、創風社、BL出版、福音館書店、復刊ドットコム、平凡社 後援: 絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会 協賛: 株式会社ジャクエツ



図2 『スーホの白い馬』(福音館書店)より(部分) 1967年

天性の絵本画家

以後赤羽は、日本や中国、モンゴルの民話の絵本を数多く手がけるようになりました。勤めに出て家族の生活を支えながら絵本を描いてきた赤羽が、フリーの絵本画家になったのは1969年、このころから古典文学や自作の絵本など、その絵本はさらなる広がりを見せていきます。1980年には国際アンデルセン賞画家賞を日本人として初めて受賞、その後も新しい挑戦を続け、80歳で亡くなるまでに80冊余りの絵本を遺しました。

物語の確かな解釈と類まれな演出力、風土や伝統文化への深い造詣、格調高く、かつ童心に届く詩情に富んだ絵画表現を備えた赤羽は、まさに天性の絵本画家といえる人でした。自らの感性が捉えたものを突き詰めてきた道が、その絵本に豊かに実を結んでいます。(上島史子)

ちひろ・子どもは未来

●2021年3月16日(火)~6月13日(日)



図1 ガーベラを持つ少女 1970年頃

画家いわさきちひろは、子どもたちの心に共感し、未来を生きていく彼らの可能性を信じ、平和な日常のなかで輝くその姿を描き続けました。

さまざまな困難に直面する今の私たちに、ちひろが描いた子どもの絵は、本当に大切なものを問いかけているようです。本展ではちひろの絵とことばを通して、時代が移っても決して変わらない大切なものを見つめなおします。

花に重ねて

子どものほかに、ちひろが生涯描き続けたテーマのひとつが花です。ちひろの

くらしのなかには常に花がありました。ちひろ自ら、数多くの植物を育て、東の間の時間を懸命に咲く花を慈しんでいました。ちひろは、花に重ねて、未来へ伸びていく子どもの姿を描き、その尊いのちや、豊かな感受性が平和な世界でこそ輝くことを伝えているようです(図1)。

絵本『あかちゃんのくるひ』

お母さんが生まれたばかりの弟と、いっしょに家に帰って来る日の少女の心の動きを描いた絵本『あかちゃんのくるひ』は三姉妹の長女だったちひろの思い出が重ねられています。場面ごとに少女の不安や期待、そして喜びに満たされる気持ちが繊細に映し出されています(図2)。ちひろ自身のなかにずっと息づいていた子どもの心が、子どもの存在そのものとその尊さを代弁しているようです。



図2 あかちゃんのくるひ 『あかちゃんのくるひ』(至光社)より 1969年

主催：ちひろ美術館 協賛：株式会社ジャクエツ

平和への願い



図3 戦火のなかの少女 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1972年

ちひろは、子どもがいる平和な情景を描く一方で、戦争のなかで生きることを余儀なくされた子どもたちを絵本に描いています。1972年から翌年にかけて、ちひろは病をおして絵本『戦火のなかの子どもたち』に取り組みます。この絵本で、ちひろは、未来を生きることができなかった子どもたちに心を寄せ、戦争への怒りと悲しみを描きました(図3)。

展示室4では、ピエゾグラフで見る『窓ぎわのトットちゃん』を開催します。刊行40周年、安曇野ちひろ公園・トットちゃん広場の開園5周年を迎える今年、あらゆる子どもたちが輝くトットちゃんの物語をご紹介します。(原島 恵)

没後1年 田畑精一『おしいれのぼうけん』展

●2021年3月16日(火)~6月13日(日)



図1 図2 『おしいれのぼうけん』(童心社)より 1974年



舞台にした絵本がある。文章に絵を添えるのではなく、作家と画家と編集者が三位一体となった絵本づくりが理想的である、と答えています。あらためて酒井から絵本の依頼を受けた古田は、画

家に田畑精一を指名します。

田畑は保育園の現場をリアルに描くために、実際に「入園」するなど取材を重ね、園児が使うような画用紙に鉛筆で80頁に及ぶ絵本の絵を描いています。迫力ある鉛筆のタッチからは、子どもの活力や熱量が伝わってきます。気の強いさとしと泣き虫のあきらの、主人公の個性のちがいが描き分けています(図1)。

「ねずみばあさん」の存在

先生に叱られて、おしいれに入れられたさとしとあきらが、地下のねずみばあさんと対決していく物語のなかで、田畑が描く「ねずみばあさん」(図2)の印象は強烈です。人形劇団の舞台美術で人形の頭を手がけていたこともある田畑は、ギョロ目に大きな鉤鼻と前歯といった造形で、恐怖の対象を見事に具現化しています。暗いトンネルを抜けた先に出

主催：ちひろ美術館 協賛：株式会社ジャクエツ 協力：童心社、白梅学園大学・白梅学園短期大学 子ども学研究部 古田足日研究プロジェクトチーム

現する夜の高速道路や高層ビルは、現代の象徴として描きたいと田畑が発案したものです。おしいれの暗闇やねずみばあさんと対峙するなかで、不安から屈しそうな瞬間、「てをつなごう」と呼びかけ、怖くても子どもだけで力をあわせて立ち向かう姿は、不安な現代を生きる子どもたちにも勇気を与えてくれます。

本展ではあわせ

て、「日・中・韓 平和絵本」の企画から生まれた自伝的絵本『さくら』(図3)も展示し、平和への信念を貫いた田畑の人物像を紹介します。

(山田実穂)



図3 『さくら』(童心社)より 2013年

1974年に刊行された『おしいれのぼうけん』は子どもたちの絶大な人気を集め、232万部を超すミリオンセラーとなっています。本展では、昨年89歳で亡くなった絵本画家・田畑精一の画業を偲び、『おしいれのぼうけん』の原画を展示するとともに、作家と画家と編集者が三位一体となった絵本づくりを紹介し、世代を超えて読み継がれる作品の魅力を読み解き明かします。

新たな試み 三位一体の絵本づくり

『おしいれのぼうけん』には、「さく／ふるたたるひ たばたせいいち」と、作家と画家の名前が並んで表記されています。

1971年、児童文学の評論でも活躍していた作家の古田足日は、童心社編集部の酒井京子から、これからの絵本のあり方について相談を受けます。古田は、現代の子どもたちの生活をとらえた保育園を

田畑 精一 (たばた せいいち 1931~2020)

1931年大阪市生まれ。京大文学部中退後、本格的に人形劇にうちこむ。人形劇団ブーク・劇団人形座などで活動の後、古田足日と出会い、子どもの本の仕事を始める。主な作品に『おしいれのぼうけん』、『ダンブえんちょうやっつけた』、『ゆうちゃんのゆうは?』、『ひ・み・つ』(いずれも童心社)、『さっちゃんまほうのて』、『ピカピカ』(いずれも偕成社)などロングセラー多数。「日・中・韓 平和絵本」シリーズの呼びかけ人の一人であり、自身は『さくら』を手がけた。紙芝居も数多く、『おとうさん』で高橋五山賞画家賞受賞。

ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展 メッセージ大募集

あなたのリクエストで展覧会をつくります

2021年秋、ちひろ美術館では、みなさんが好きなちひろの絵で構成する参加型の展覧会を、両館で開催します。絵にまつわる思い出やその絵の魅力など、メッセージを添えてあなたの大好きなちひろの絵をリクエストしてください。ちひろの絵といっしょに、お送りいただいたメッセージを紹介します。

3月上旬（予定）より、本展の特設サイトを開設します。随時、作品のランキングとメッセージも発表する予定です。

みなさんからのたくさんのリクエストをお待ちしています。

ちひろの作品を後世に伝えていくために

本展は、ちひろの絵を両館ですでにだけたくさんご覧いただけるよう、高精細の「ピエゾグラフ」で構成します。

ちひろの絵の多くは、描かれてから長いものでは75年、短いものでも50年近い歳月が経っています。ちひろ美術館は長年にわたり作品の保存管理に努めてきましたが、水彩画は脆弱で、時間の経過に伴う紙の劣化、絵の具の退色は避けられません。

そこで、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを続けてきました。そのデジタル情報をもとに、ピエゾグラフの制作も進めています。

ピエゾグラフとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、繊細な水彩表現も高度に再現しています。光や温湿度の変化にも強いピエゾグラフは、ちひろ作品の公開の可能性を大きく広げました。17年にわたるアーカイブの成果をご覧ください。（宍倉恵美子）



「ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展」リクエスト募集のチラシ

応募の詳細は「特設サイト」をご覧ください

URL myfavorite.chihiro.jp
「わたしの好きなちひろ展」で検索

特設サイトのほか、「SNS (Facebook・Twitter・Instagram)」「はがき」「FAX」でもご応募いただけます。

*リクエスト募集のチラシをご希望の方は、ちひろ美術館（東京・安曇野）にお問い合わせください。

ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展 展覧会会期

●安曇野ちひろ美術館
2021年9月11日(土)～11月30日(火)

●ちひろ美術館・東京
2021年10月2日(土)～2022年1月16日(日)

窓

「内なる冷笑主義を越えて」

竹迫祐子（公財）いわさきちひろ記念事業団

昨秋、日本学術会議の第25期会員候補者105名の内、6名が菅義偉首相によって任命拒否され、数多くの学会や団体が抗議の声を上げました。任命拒否の理由が明らかでなく、菅首相の「広い視野を持ち、バランスの取れた行動を行い、国の予算を投じる機関として国民に理解されるべき存在であるべき」という発言に対し、イタリア学会は、「学問は国家に従属する《しもべ》でなければならないという誤った学問観」と「国家からお金をもらっている以上、政権批判をしてはならない」という誤った公民観があると指摘し問題の本質を明確化しました。

1月22日、発効に必要な50を超える世界52の国が批准し「核兵器禁止条約」が発効されました。条約は、「核兵器の開発、実験、製造、取得、保有、貯蔵、移譲、使用、使用の威嚇などの活動をいかなる場合にも禁止し」、「核兵器を廃棄する義務を果たすことを前提に、核保有国も条約に加盟できる」ことを規定してい

ます。また、「運用などについて話し合う締約国会議や再検討会議の開催」を定めて、非加盟国にもオブザーバー参加を呼び掛けてもいます。しかし、唯一の戦争被爆国である日本の政府は、納得のいく理由もなく、署名も批准もせず、会議へも参加していません。

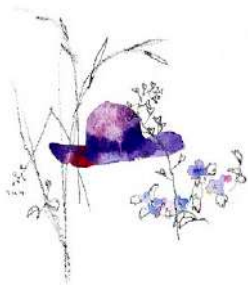
こうした政治の現状が、必ずしも適切に報道されない状況が、さらに問題を深刻化しています。日本のメディアのあり様について、国連人権理事会は日本政府に対し、2017年、19年、「日本におけるメディアの独立性」が保たれていないと、11の項目による改善勧告をしました。政府が放送局に電波停止を命じる根拠となる「放送法第4条」や、当局者による政府に批判的なジャーナリストらへの非難も「新聞や雑誌の編集上の圧力」として指摘されています。2020年、日本の「報道の自由度ランキング」（国境なき記者団）は世界66位。メディア自身による「忖度」「自粛」「自己規制」も問題

視されます。

メディアへの不信に反比例するように活発化するSNS等では「冷笑主義（シニシズム：社会の風潮・事象などを冷笑・無視する態度）」的な傾向を懸念する声が聴かれます。さまざまな社会的問題に対し、大坂なおみさんなどスポーツ選手や芸能界で活躍する人が、自分が正しいと考えることを発言する姿は人々に勇気を与えましたが、一方でそれを揶揄する風潮も目にしました。よりよい世の中にしていくために、真正面から発言し行動することは、冷笑されたり、まして攻撃されるべきものではありません。

学問の自由、表現の自由、報道の自由などは、日本国憲法の「第3章 国民の権利と義務」に明記されています。その第3章第12条には、「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならない」とあります。つまり、私たち次第であると伝えていきます。

東京 美術館 日記



11月16日(月) ☀

今日は草花の植え替えの日。パンジーやゼラニウムとともに、ちひろの庭では、春にむけてチューリップの球根も植えられた。冬を越えて、花の季節が今から待ち遠しい。

12月1日(火) ☀

近隣地域の小学3年生が社会科見学で来館。密にならないよう、小グループにわかれて館内をめぐる。ちひろについて事前学習もしてきた子どもたち。展示の感想や心に残った絵などを、どの子もノートにぎっしり書きこんでいた。

12月12日(土) ☁

初めてオンライン開催となった「わらべうたあそび」の会。時間になると、画面の向こうに次々とあかちゃんの姿が。講師の呼びかけにこたえて、お母さんといっしょにわらべうたで遊ぶ、楽しいひとときとなった。

12月20日(日) ☀

「あかちゃん・子どものための鑑賞会」もオンラインで開催。子どものための鑑賞会では、ワークタイムもあり、画面の向こうでそれぞれ、自由な発想で作品が生まれて

いくようすを共有した。今できることはなにか、知恵をしぼって取り組んでいきたい。

12月22日(火) ☀

イタリアのピンバ・ランドマンさんに展示中の写真をお送りしたところメッセージが届く。「この困難なときに芸術が私たちと美の世界をつないでくれますね。これこそみんなが必要としていること。そしてこれから先、もっとよい世の中をつくるためにも、芸術が必要とされると願っています」力強いことばに思いをあらたにする。

ひとつ ふたこと みこと



9月30日(水)

故郷、安曇野にあるちひろ美術館。偶然、今住んでいる場所の近くに東京館があり、シンクロシティを感じました。今の状況では実家に帰ることはできなくてさみしいですが、ここにいるとなんだか実家のようにあたたかく安心しました。早く家族に会いたいな……。みなさんも大切な人と過ごせますように。(Ayumi)

10月4日(日)

ここに来たのは20数年ぶり。私もお母さんになりました。ちひろさ

んの描いた後ろ姿のお母さんみたいになりたかったけど、そうはなれませんでした。ひとりで今日来てみて、いろいろあった人生を振り返り、でも戻ることはできないから後ろを向いてばかりいるのはやめようと思います。そんな気持ちにさせてくれてありがとう。また来たいと思います。

10月24日(土)

私は絵をかくことが大好きです。今日この美術館に来て、たくさん絵や作品とふれ合うことができました。今とても絵がかきたくて

しょうがないです！すてきな時間でした。(三鷹市 大前凜)

11月4日(水)

初めて来ました。高校生のとき展覧会に家族と行ってから大好きになりました。そのとき買ったポストカードは今でも大切に飾っています。あと数ヶ月で社会人になり、子どもと関わる職業に就きます。幼いころの心を持ち続け、ちひろさんのように子どもたちの心の内面、一瞬の表情も見逃さない大人になりたいと思います。また来られますように。(仙台市 S.H)

安曇野 美術館 日記



9月28日(月) ☀

月2回開催してきたギャラリートークは当面休止となり、初の試みとしてSNSでの配信を開始。画面を通して、作品の見どころや展覧会のようなすが少しでも伝わるように、工夫をしていきたい。

10月5日(月) ☀

松川村図書館との共催で「田島征三&ふき親子によるトークライブ」を行う。参加者の定員を減らすなど、感染症対策を講じての開催となった。『ふきまんぶく』の制作エピソードや、日の出村の暮

らしを語るおふたりの穏やかなやりとりに、会場はあたたかな空気に包まれた。常に“これから”を見つめて作品に向き合い、制作中の絵本についていきいきと語る田島さんの姿に勇気をもらおう。

11月30日(月) ☀

国際交流基金ソウル日本文化センターの公式サイト内で開催されたオンライン展示「いわさきちひろ展—小さな生命の光、絵に込めて—」。約2か月の展示期間中に4,700以上の閲覧があった。「こうしてちひろさんの絵を見ることが

できて幸せです。子どもたちに、平和を愛し子どもたちを愛した、ちひろの絵を紹介するつもりです」など、韓国からあたたかなコメントが寄せられた。オンライン上でのつながりに新たな可能性を感じる。

1月22日(金) ☁

感染症拡大防止のためクローズしていた絵本カフェは、3月からオープン予定。安全に留意した新しいかたちでの営業に向けて、お客さまがくつろぐ姿を想像しながら準備を進める。

ひとつ ふたこと みこと



9月21日(月)

明日は相棒の72歳の誕生日。毎年、この時期は欠かさずちひろ美術館を訪ね、ゆっくり過ごしています。田島征三さんの想いは重く、考えさせられました。若い人にも、伝わりますように。

10月12日(月)

第2展示室に『おにたのぼうし』の絵本が展示されていてびっくり！小学生のとき、冬休みの推薦図書で母に買ってもらった絵本です。保育士になって多くの絵本と出会い、あかちゃんが生まれると

聞けば、ちひろさんの絵と絵本をよく贈っていました。今日、自分とちひろさんがつながった気がします。(明日57歳のかづみ)

10月24日(土)

昔、親にいつも読んでもらっていた『ふきまんぶく』。原画を見て感動しました。娘の名前はこの絵本からいただいて「露」です。自然とともに育ち、大地に根を張りながら大きくなってほしい。

11月13日(金)

美術館に初めて来ました。心が洗われるような空間が素敵。ちひろ

さんが描く子どものような、無垢な気持ちを忘れずに生きていきたい。豊かさをもって。

11月26日(木)

小さいころからちひろさんの絵を見て育ちました。高校生のころは、ちひろさんの全集を買うためにアルバイトをしたりして。念願の安曇野に来るまでに50年以上……美術館に入った途端、涙があふれました。平和を愛する気持ちは私も受け継ぎます。かわいい孫たちが決して戦争に行かないようにしたい。(大阪市)

〈ちひろ美術館・東京 2021年展示予定〉

●6月19日(土)～9月26日(日)

ちひろの花鳥風月

生誕111年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら



赤羽末吉 「だいくとおにろく」(福音館書店)より 1962年

●10月2日(土)～2022年1月16日(日)

ピエゾグラフィによる わたしの好きなちひろ展
ちひろの歩み—童画から絵本へ—

〈安曇野ちひろ美術館 2021年展示予定〉

●6月5日(土)～9月5日(日)

トットちゃん広場5周年
『窓ぎわのトットちゃん』展

現代の町絵師 笑い反骨の画家
田島征彦展

ちひろ美術館コレクション
子どもの時間



田島征彦 「祇園祭」(童心社)より 2016年

●9月11日(土)～11月30日(火)

ピエゾグラフィによる わたしの好きなちひろ展
没後1年 田畑精一『おいしいのぼうけん』展
ちひろ美術館コレクション 絵本で世界を旅しよう!

〈赤羽末吉展関連展示〉

生誕111年を記念し、安曇野ちひろ美術館での展示をはじめ、3つの会場で、赤羽末吉の展示会を開催します。

●生誕111年 赤羽末吉展 スーホの草原にかけける虹

会期：2021年5月29日(土)～6月30日(水)
会場：銀座 教文館 9F ウェンライトホール
TEL.03-3563-0730

主催：株式会社教文館ナルニア国、ちひろ美術館

『スーホの白い馬』の全場面をはじめ、中国の少数民族の民話『ほしになつたりゅうのきば』『あかりの花』などの絵本をピエゾグラフィで紹介いたします。

●生誕111年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら

会期：2021年6月19日(土)～9月26日(日)
会場：ちひろ美術館・東京
墨絵や大和絵、物語絵の源流である絵巻物など日本の伝統的な美術を研究して、自在に絵本の表現に取り入れた赤羽末吉。子どもに開かれた日本の美術の入口ともいえる赤羽末吉の絵本の魅力を紹介いたします。

〈赤羽末吉展関連イベント〉

●4月11日(日) 赤羽茂乃講演会
「赤羽末吉の人生と絵本——大陸と雪国」

時間：14:00～16:00 (13:30開場)
参加費：500円(入館料別) 定員：40名
会場：安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー
申し込み：要事前予約(3月1日より受付開始、公式サイト、TEL.0261-62-0772にて)



赤羽末吉展の開催を記念して、赤羽末吉の研究者で『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかけける虹』の著者である赤羽茂乃さんによる講演会。赤羽末吉の三男の妻でもある茂乃さん。家族ならではのエピソードも交えながら、赤羽末吉の絵本と仕事、生涯を語ります。
※本講演は、オンライン配信も予定しています。詳細は公式サイトをご覧ください。

〈赤羽末吉展関連書籍〉

●『コロナ・ブックス 赤羽末吉 絵本への一本道』

平凡社 本体2,000円(税別)
本展出品の作品や豊富な資料、3人の息子が「おやじさん」を語るインタビューなどを掲載。

●『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかけける虹』

赤羽茂乃・著 福音館書店 本体2,500円(税別)
三男の妻である著者が、義父への思いとともに赤羽末吉の人生を語った初の評伝。

〈田畑精一展関連イベント〉

●4月25日(日) 酒井京子講演会
「田畑精一さんと絵本づくり」(オンライン)

時間：15:00～16:30
参加費：700円 定員：70名
申し込み：要事前予約(3月25日より受付開始)

田畑精一展の開催を記念して、『おいしいのぼうけん』を編集した酒井京子さん(童心社 会長)による講演会を行います。古田足日さん、田畑精一さんとの三位一体での絵本づくりや、田畑作品の魅力についてお話をうかがいます。



※オンライン会議アプリのZoomを使用した講演会です。ご自宅などからご参加ください。

●いわさきちひろ ピエゾグラフィ展

会期：2021年1月30日(土)～3月14日(日)
会場：酒田市美術館(山形県) TEL.0234-31-0095

●そのほか安曇野館でのイベント

○3月21日(日) 長野県民感謝デー
日頃の感謝を込めて、長野県にお住まいのみなさまをご優待します。
※当日は安曇野ちひろ公園にてまつかわ花咲まつりも開催されます。

○4月19日(月) 開館記念日
当日ご来館の先着100名さまに、ポストカードをプレゼントします。

●開館時間のお知らせ

ちひろ美術館・東京：10:00～16:00(入館は閉館の30分前まで)
安曇野ちひろ美術館：10:00～17:00(3月は16:00まで)
※開館情報、会期、展示名などは、予告なく変更になる可能性があります。
最新情報につきましては、公式サイトやSNS等にてご確認ください。

CONTENTS 〈安曇野ちひろ美術館〉ちひろ・子どもとあそび／生誕111年 赤羽末吉 絵本への一本道…②／〈ちひろ美術館・東京〉ちひろ・子どもは未来／没後1年 田畑精一『おいしいのぼうけん』展…③／ピエゾグラフィによる わたしの好きなちひろ展 メッセージ大募集／窓…④／東京美術館日記／ひとことふたことみこと(東京)／安曇野美術館日記／ひとことふたことみこと(安曇野)…⑤

美術館だより 合併号 No.211/104 発行2021年2月17日

ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 TEL.03-3995-0612

安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24 TEL.0261-62-0772